

仲間との対話から自己の課題に気付き、自ら改善していく ことで清掃技術を高めていく取組

【学校名：千葉県立特別支援学校市川大野高等学園】

～取組のポイント～

上級生がアドバイザー役になり後輩に清掃の技術を伝えたり、生徒同士でお互いにアドバイスしたりするなど、対話的な活動を通して学び合うことで、清掃の技術を高めていく取組である。対話から新たな気付きを促し、主体的で深い学びへとつなげている。

1. 実践の概要

(1) 対象生徒

メンテナンスサービスコース（以下、本コース）の1年生（1年男子6名女子2名）で、千葉県特別支援学校清掃検定県検定（以下、県検定）選手の選考の基準である「千葉県特別支援学校清掃検定（以下、清掃検定）の目的に理解を示し、清掃検定を希望した生徒のうち、各種目の試技上位者3名」とした。

(2) 教科・領域

専門教科の時間（14単位時間／週）内で実施した。

(3) 目標

標準的な清掃方法を理解して取り組むことができる。

(4) 学習計画

11月下旬（学園祭終了後）から12月までの約59時間内で実施する。

※「校内大掃除単元」と同時進行

2. 実践の内容

- ・県検定の申し込み1か月ほど前から清掃検定の意義やねらい、学ぶことのメリットなどを生徒に話し、校内での練習に入る。
- ・校内の清掃検定の練習は初めに1週間程度、各生徒の適性を見るために行い、そこで各生徒自身がより実力を出し切ることのできる種目を自己選択できるようにしている。
- ・その後に選手を選定し、2週間程度の練習を経た後に県検定へ出場する。
- ・多くの生徒は細かいルールを覚えるとともに、ルールがある理由について、座学や実習を通して学習を進める。
- ・授業の中では、教員の言葉も大切であるが、就職した際と同僚や先輩からの言葉も大切であるという考えの下に、他者評価を取り入れた。
- ・清掃検定の出場締め切り前には校内検定を行う。可能な限り県検定を想定した場を作成し、教員は試技を採点し、生徒は試技者の見学を行う。

3. 工夫点

- ・社会人になった際に、後輩としてどのような態度が良いのか、先輩として相手を思いやった態度とはどのようなものなのかを感じられるようにした。

- ・「アドバイスシート」(右図) を使ってメモにしておき、自分の意見として相手に伝えられるようにした。
- ・より県検定の場面に似通った設定にするために、軽量鉄骨を利用した枠を作成し、毎回同じ大きさに、素早く、少人数でも組み立てられるようにした。

アドバイスシート		
平成29年__月__日		
記入者: _____	試技者: _____	
演技内容: アビリン	フロア清掃	窓清掃
改善点: ここを直すともっと良い。		

良い点: ナイス、名演技。		

4. 実践の評価 (成果と課題)

- ・お互いにアドバイスをし合うことで、清掃検定の技量を上げ、他者からの評価を受け入れて試技に生かす練習や相手を思いやったアドバイスができるようになった。
- ・どのようなことを伝えられたらうれしいか、役に立つか、自分ならば言われたときに嫌な気持ちにならないかに気を付けて、前向きなアドバイスや主体的に自分の意見を伝えることができてきた。
- ・上級生も清掃検定を経験していることから、アドバイザー役として、1年生に清掃検定の内容を伝えたり、手本を見せたりする場面があった。
- ・上級生も自分が県検定で失敗した箇所やミスしやすい所、県検定の雰囲気などを主体的に伝えることができた。
- ・近隣病院の出張清掃の際に、学んだ内容を実践できた。また、異なる清掃場所では、使う技術が違うということも実感できた。
- ・本検定を通して、全ての生徒で清掃の質の向上が見られた。
- ・以前は何となく行っていた窓清掃が、理由も含めて考えられるようになったことは大きな変化である。
- ・集中する力や目標に向けて取り組む力が身に付き、主体的に清掃に取り組む姿が見られるようになった。
- ・県検定と同じ大きさや質感の枠で練習できることは、県検定での生徒の緊張や不安を軽減させることに繋がった。

(2) 課題・展望

- ・清掃検定の根幹の理念として、「幼児児童生徒に清掃の楽しさを伝える」ことがあげられる。学習・発達段階に応じた指導方法で清掃検定を伝え、目先の「金賞のために」という、本来の趣旨とは異なることにならないようにしていきたい。
- ・発展的な学習として、障害者技能競技大会や厚生労働省資格であるビルクリーニング技能士への学習を用意し、各生徒が自身の技量に合わせて主体的に取り組めるように学習内容を用意したい。